

# そ

## 想ひろげ あれこれチャレンジ 脳活性

Keyword : 発想・構想, 五感覚総動員, 脳活性



ポーランドのウカシェビッチ先生の授業「想像力はもう一つの手（1993.3.18/TV放映）」が三次市立甲奴小学校の石井正記先生の琴線にふれました。ある日（2012.6.12.）、石井先生はウカシェビッチなりきり授業「手でみてかこう～箱の中のふしぎな世界（3年生/14名）」にチャレンジされました。

とりわけ石井先生の心に響いたのは、ポーランドの子どもたちがブラックボックスの中に興味津々手をさし込み、触覚で感じたことを言葉に置き換え、ウカシェビッチ先生と遣り取りしつつイメージを形成していくシーンだったようです。

ウカシェビッチ先生は、人間の「想像力」こそがよりよき未来をつくるという信念を背景に日常の授業をつくっており、当該授業もそのひとつだったようです。石井先生の授業のねらいも単に絵をかかせるだけではなく、“感じる力”“考える力”“みる・かく・つくる力”の形成が主眼であり同調の要因になったようです。

次ページの写真は、ウカシェビッチ先生のそれを模して石井先生が自作された「ブラックボックス」です。石井学級の子どもたち、やはり興味津々、両手をボックスに突っ込み手指で味わい、石井先生との遣り取りのプロセスで、さまざまなことを感じ、考え、



言語化しつつイメージをふくらませて  
いました。私が確認した子どもたちの  
反応はポーランドの子どもたち同様に  
脳フル稼働の状態にあったとの観察所  
見です。

前頁 (Page25) に引用した子ども  
の表現は石井先生の授業から生まれた  
絵です。屈託のない“いい表現”だと  
私は思います。それにしても不思議だ  
ったのは、否、むしろそれが当然だ  
ったのかも知れませんがポーランドの子  
どもたちの絵の中にもこうした肩肘張  
らないニュアンスの表現が散見された  
ことです。

